

ほうこん

題字・清水英夫

GALAC・1月号・付録
2016年1月6日発行(毎月1回6日発行)
昭和43年3月8日第三種郵便物許可

〒160-0022
東京都新宿区新宿5-10-14 中村ビル2F
NPO法人放送批評懇談会

TEL(03)5379-5521/FAX(03)5379-5510
ホームページ <http://www.houkon.jp/>
Eメール kondankai@houkon.jp
編集・藤田真文

第53回上期ギャラクシー賞 各部門の選考終了

11月理事会報告

2015年11月20日、11月理事会が開催された。

1. 委員会活動報告

◇出版事業委員会 飯田委員長

・本日1月号の最終の校正作業を終了した。表紙は堤真一さん。ザ・パーソンは田中晃さん。特集は「セミナー抄録 ラジオの可能性を真剣に考える」と「第53回ギャラクシー賞上期発表」。今回テレビ部門の応募本数が多かったため、連載を5本休載した。また、ギャラクシー賞の審査の仕組みと委員の選考委員のリストは割愛した。

・2月号の特集は「テレビのネット連動20年」。表紙は有村架純さん。ザ・パーソンは岩渕健輔さん。

3月号の特集は「BPO」の予定。

・1月号から「GALAC」電子版の配信をはじめますが、本体価格

を500円としたい。↓承認。

角川から提示された契約書について小林理事と山田理事より、検討すべき点について指摘があった。これを受けて角川とさらに交渉を詰めていくことにした。

◇選奨事業委員会 藤久委員長

〈テレビ部門〉

・11月3日に第53回ギャラクシー賞上期の選考を行って、7本の入賞作品を決定した。今回は応募作品から3本の入賞となった。(その後、選考過程の説明があった。詳細は「GALAC」誌1月号に掲載。入賞作品名も同様なので省略。他委員会も同様)

・11月3日に10月度の月評会を開催して、「夜の巷を徘徊する」3時間特集(テレビ朝日)「NNNDキュメント15 シリーズ戦後70

年 南京事件 兵士たちの遺言」(日本テレビ)「有吉弘行のドッ喜利王」(TBSテレビ)「連続ドラマW しんがり(山一證券 最後の聖戦)」(WOWOW)の4本を選んだ。

〈ラジオ部門〉 橋本委員長

・10月28日、29日選考を行い8作品を入賞候補作品として選んだ。上期ということもあり、戦後70年に関連した作品が7本になった。

・11月24日に定例会を開催予定。

〈CM部門〉 稗田委員長

・10月26日に選考を行い、12作品を入賞候補作品として選んだ。主な内訳は30秒CMは42作品中2作品残り、シリーズ作品は44本の中から2作品。地方CMは30本だったが、3作品残った。

・11月17日に定例会を開催して、資生堂のWeb限定CM、北海道新幹線、主婦と生活社の「CHANNTO」などの27本の気になるCMについて話し合った。

〈報道活動部門〉 鈴木委員長

・10月24日に選考を行い、4本の入賞候補作品を選んだ。参加本数11本のうち、6本が戦後70年関連

のもだった。

・11月7日に専修大学神田校舎で「報道活動を見て、制作者と語る会」を開催したが、参加者は約40名だった。レポートを1月号に掲載する。

◇企画事業委員会 川喜田委員長

・10月26日に会議を開催した。次回のセミナーは2月19日明治記念館で、「元氣なテレビ局」をテーマに開催する予定。

◇マイベストTV賞プロジェクト

滝野プロジェクトリーダー

・Gメンバーサイトの構築作業中。

12月中には形にしたい。来週開催予定の会議で会員の募集方法を話し合う予定。

2. その他

①マイナンバーの件

NPO法人用の特定個人情報の適正な取扱いに関する基本方針に従い、準備を怠りなくやっていく。

②日本映像事業協会「ヤング映像クリエーターを励ます賞」後援の件

藤田専務理事より内容説明↓了承。

③日韓中テレビ制作者フォーラム報告

今回参加した飯田常務理事、鈴木理事、藤久理事から報告があった。

次回以降の理事会

12月17日(木)

1月25日(月)

【出席】音好宏、橋本隆、藤田真文、川喜田尚、飯田みか、藤久ミネ、稗田政憲、鈴木嘉一、滝野俊一、小田桐誠、茅原良平、小林毅、坂本衛、桜井聖子、嶋田親一、山田健太、中島好登

会議記録

【11月】……………

3日 (選奨) テレビ月評会

12日 出版編集委員会

17日 (選奨) CM定例部会

20日 理事会

24日 (選奨) ラジオ定例部会

マイベストTV賞プロジェクト委員会



お知らせ

放送批評懇談会ホームページには「正会員」の情報が掲載されています。掲載中の情報の変更をご希望の場合は、事務局までメール、FAX、電話でご連絡ください。

メール kondankai@houkon.jp

FAX 03-5379-5510

TEL 03-5379-5521

よろしく願いたします。

日韓中テレビ制作者フォーラム 2015.10.28wed-31sat に参加して

飯田みか



テーマは「アジアのフォーマット」

第15回「日韓中テレビ制作者フォーラム」に参加させていただきました。開催地は韓国第2の都市・釜山、会場と宿泊は老舗の海雲台グランドホテルです。

このフォーラムに参加するのは3回目です。過去2回（慶州・横浜）では、歴史的・政治的事情を背景にした非常にデリケートなやりとりや、小さな表現が引き起こした感情的なトラブルを目にしました。昨年は日本ドラマの中の戦争をめぐるセリフがもとで、最終日の記念撮影に中国勢が参加しませんでした。今回は、記念撮影が2日目の昼食前、つまりプログラムが始まってすぐとなっていること思わず苦笑したのですが、そのような配慮は不要なほど、平穏で前向きな雰囲気になりました。

3泊4日のスケジュールのメインは、番組の鑑賞と質疑応答です。各国がそれぞれドラマ・時事教養・芸能の各部門に、1本ずつ番組を出品します。全9本の番組を全員で見ますが、1本ずつの上映後に、その制作者が登壇して短く話をします。その後、参加者が感想を述べたり制作者に質問したりするのです。

日本の出品作は、ドラマ部門がTBSテレビの「おやじの背中ーウエディング・マッチ」（登壇者 八木康夫プロデューサー）、時事教養部門がNHKの「見えず聞こえずとも」（登壇者 伊集院要ディレクター）、芸能部門がテレビ朝日の「しく

じり先生ー俺みたいになるな（浅田舞の回）」（登壇者 冨澤有人プロデューサー）でした。どの番組も好評でしたが、特に「しくじり先生」のあとで語られた、難しい出演交渉やいいないな制作態勢などに関心が集まりました。

2日目に司会を務めたイ・ドンギユ氏（SBS芸能プロデューサー）が、テーマへの期待を込めて「アジアの情緒は共通する」と語ったのが印象的だったのですが、今回のテーマは「アジア・フォーマットの可能性」でした。第14回までのテーマに「家族」「暮らし」「歴史」「旅」など、人間を感じさせる言葉が入っていたのとは趣が違います。フォーマットという言葉から連想されるように、全体的にビジネスへの高い関心がうかがわれました。

また、「映像コンテンツ制作のハブ都市」を自認する釜山市が全面支援し、主催者にBCM（釜山コンテンツマーケット組織委員会）が名を連ね、付帯行事としてピッチングセッション（公開企画提案会議）が並行しておこなわれていました。

テーマに呼応するように、中国のドラマ「武神趙子龍」が日韓を強く意識して作られていたことも示唆的でした。「韓国でも日本でもファンが多いと聞いた」（程力棟プロデューサー）という『三国志』の趙雲が主人公で、韓国の俳優も起用し、豪華なセットに衣装、3Dにワイヤーアクションも盛りだくさんの、全60話の大作です（見たのはダイジェストなのでストーリーはまったくわからず、コマ回りの速さに目が回りそうでしたが）。

写真【上】ホテル眼前に広がる浜辺で 【下】①閉会式で。撮影者でトロフィ授与が見えませんが（笑）②フォーラム「国際共同制作の現状」。実績ある元NHKの田村文孝氏（左から2番目）の発言が光りました ③韓定食。右端は八木康夫氏 ④「しくじり先生」制作秘話に皆、興味津々

「時事教養」部門の作品



🇯🇵 NHK スペシャル
「見えず聞こえずとも」

左が河野氏

丹後半島に暮らす60代夫婦の静かな生活を追ったドキュメンタリー。有機農業で自給自足する生真面目な夫と、盲聾で天真爛漫な妻は、手を握り合う「触手話」で会話する。なお、夫が1974年頃、武者小路実篤が推進した「新しき村」にいた映像が挿入されており、「私が撮った」と言う河野尚行氏に会場がどよめいた。



🇰🇷 「町の晩餐」 登壇は李志云氏。

原発誘致の賛否で分かれる町に、与野党の議員2人が訪れた。自らテントを張り、食材を買い、推進・反対両派の住民代表に夕食を供し、初めての「対話」を取り持つ。晩餐の仕掛けはKBS。日本人から「公職選挙法に抵触する場合がある」「酒を酌み交わすのはありえない」などの驚きの声とともに、ジャーナリズムの一つの手法として大きく評価する意見も上がった。



🇨🇳 「田舎から見た中国」 登壇した

のは有名なカメラ監督の熊波氏。普通の農村で家を借り、弟子と一緒に鶏を飼い、野菜を作りながら、1年以上カメラを回した。春夏秋冬の季節のなか、苦労と折り合っていく貧しい家族の生活を、ナレーションなしに淡々と描いたドキュメンタリー。会場からは称賛の声とともに、「ぜひ10年後、20年後の同じ村を撮ってほしい」という要望が寄せられた。

このフォーマットなら見てみたい!

というわけで、番組の感想を語るときに「これは、フォーマットとして通用する」という言葉が、特に中国と韓国の方からよく聞かれました。では私自身が「このフォーマットなら、日本版もぜひ見たい!」と思えた番組を2つご紹介します。

「町の晩餐」(韓国)は政治討論番組の一種ですが、与野党の議員が地方に向き、対立する住民代表2人と酒を酌み交わしながら話す趣向が新鮮でした。日本でも原発や基地で揺れる地域で、これぐらい大胆な番組をやってほしいと思いました。「青春FCハングリーイレブン」(韓国)は芸能部門への出品でしたが、ヒューマンドキュメンタリーともいえるシリーズ番組です。ワールドカップ

の英雄アン・ジョンファンらが、一度はサッカーを諦めた若者を集めてチームを作るのですが、入団テストに挑む若者たちの背景と喜怒哀楽をカメラは追いました。

番組そのものにも感動したのですが、もうひとつ印象に残ったことがあります。それは、ラストの画面に「青春」という文字が出たことです。プログラムを見ると、中国語のタイトルにも「青春」が入っています。文字がハングル、簡体字と別の道を選んだ3か国で、「青春」という言葉が共通であることが、やけに嬉しく思えました。

平穏無事に終わりましたが……

お天気にも恵まれた、有意義な4日間でした。閉会式の後、ボランティアのガイドさんが「新

世界」に案内してくれました。ギネスブックにも載っているという世界最大のデパートです。その隣には「映画の殿堂」がありました。国際映画祭の会場ですが、前衛芸術的な巨大建築には目を見張りました。2つの建物の「先進性・商業性」は、釜山という都市を象徴し、今回のフォーラムの雰囲気ともリンクしていたように思いました。

毎回トラブルが起こっては、主催者も参加者も疲弊することでしょう。ですが、日韓中の制作者が率直に意見交換をするこのフォーラムでは、トラブルを積み重ね、それを次の世代に語り継いでいくことにも大きな意義があると思うのです。平穏で前向きな回と、トラブルでハラハラする回と、両方あつていいんじゃないの? という勝手な意見を申し上げて、ご報告とさせていただきます。